



未来を夢見て

2020/7/5 No. 21

種さえ蒔いておけば いつか 必ず 芽が出る ~初心忘るべからず~

学校が再開して約一月が経過し、子供たちの学習の成果も目に見えるようになりました。写真は2年2組細川先生の学級のお子さんのノートです。平仮名の「おれ」や「まがり」そして「はらい」がしっかりできていて、感心しました。大人が見ても参考になるノートです。

また、毎日頂いている給食も本当においしくて、写真は7月3日（金）のメニュー。特に「五目豆腐」は絶品でした。

さて7月2日（木）今年度に入って初めて大和町教育委員会主催の初任者研修が行われました。私も含めてみなさん初任の頃があったので、初任の先生のお気持ちは本当に共感できることと思います。

4月以来、拠点校指導教員の豊嶋先生の温かい御配慮と御指導もあって、佐藤美香子先生、赤坂勇樹先生、お二人ともここまで順調に研修を重ねることができました。先週からは校内の先生方の授業提供も始まり、早速5年1組の後藤先生に道徳の授業を参観させていただき、身近な先輩の授業からたくさん学ぶことがあったことと思います。

大和町教育委員会の初任研で、上野教育長先生から講話をいただき、お二人とも改めて初心に戻って、「教育は人なり」ということ、子供を育てるといふことの尊さを学ばれた、という報告を聞かせていただくことができました。

※美香子先生から教育長先生の講話資料をお借りしました。私たちも大変参考になる資料ですので、別途お渡しします。ぜひお読み願います。

私たちは教育公務員として、研究と修養に努めなければなりません（教特法21条）。それは私たちが教員として崇高な使命を担っているから（教基法9条）でもありますが、私は、私たち自身が学び続けるからこそ、子供たちの前に立つ「資格」を得ているからだと常々考えています。

勤務地を離れての研修（教特法22条）の魅力は、何と言っても日々の忙しい業務の時間を止めて、自分を見つめ直したり、自分の学校や学級を振り返ったりできる場所にあるように私は思います。今年は感染症の影響で外に出る研修の機会は少なくなりましたが、その分、校内での研修の機会は充実させていきたいものです。

先日の打合せで、限られた時間であるにも関わらず、島貫先生が予定外に「雨の日の校庭の使い方」について事務連絡を協議に変えて、先生方に意見を求めました。（ああ、勤務時間が過ぎるなあ・・・）と思いながらも、驚いたのは、先生方から意見が続々出る雰囲気でした。**（この雰囲気は絶対になくしてはダメです！）**ここが島貫先生はじめ小野小学校の先生方のよいところで、大事なことはきちんと話し合い、納得と合意、そして意思表示を大切にしていることがよく分かりました。

あの日の「混乱」は私に責任があつて、昼に軽い気持ちで「遊ばせること」を許可しましたが、せっかく前日、担当の先生方が話し合ったことをあっさり裏切ってしまったようで、反省させられました（畠山英幸先生のぶれない姿勢には敬服します）。その後、私の**「考えて行動する子供に育てたい」**という気持ちを汲んで、写真の約束を作成していただきました。

小野小学校の校長として最初に誓ったように「それが子供のためになるか」（原点）という信念を忘れず、大切なことは時間がかかってもみなさんと話し合つて（対話）進めていく、そのことの大切さを改めて学んだ、打合せでの貴重な意見交換の時間でした。（文責：手代木）

